

2016年1月28日
株式会社日本政策金融公庫

生活衛生関係営業の景況、緩やかに持ち直しの動きが続く

生活衛生関係営業の景気動向等調査結果（2015年10～12月期）

<業況判断DI>（2ページ）

- 業況判断DIは、前期から1.9ポイント低下して▲15.4となった。前年同期に対しては6.2ポイント上回り、3期連続で前年同期の水準を上回った。
- 業種別にみると、「ホテル・旅館業」が21.5（前期比4.4ポイント上昇、前年同期比15.4ポイント上昇）と改善傾向が顕著。
- 来期の見通しは▲19.8となり、4.4ポイントの低下を見込んでいる。

<売上DI>（3ページ）

- 売上DIは、前期から1.9ポイント低下して▲16.3となった。前年同期に対しては6.6ポイント上回り、11期連続で前年同期の水準を上回った。
- 来期の見通しは▲14.4となり、1.9ポイントの上昇を見込んでいる。

<採算DI>（4ページ）

- 採算DIは、前期から1.9ポイント低下して▲4.2となった。前年同期に対しては4.3ポイント上回り、11期連続で前年同期の水準を上回った。
- ⇒業況判断DIは3期連続、売上DIは11期連続、採算DIは11期連続で前年同期を上回る。

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 国民生活事業本部 生活衛生融資部
生活衛生情報支援グループ 担当：竹迫、谷藤 TEL 03-3270-1653

【調査の実施要領】

調査時点	2015年12月上旬			
調査方法	訪問面接調査			
調査対象	生活衛生関係営業 3,220企業			
有効回答企業数	3,041企業（回答率 94.4%）			
（業種内訳）	飲食業	1,439 企業	映画館	57 企業
	食肉・食鳥肉販売業	142 企業	ホテル・旅館業	172 企業
	氷雪販売業	56 企業	公衆浴場業	112 企業
	理容業	371 企業	クリーニング業	258 企業
	美容業	434 企業		

【本調査における留意事項】

- 2012年4～6月期調査時点で調査対象企業の見直しが行われている。
- 比率の算出にあたっては、無回答を除いたものを母数としている。

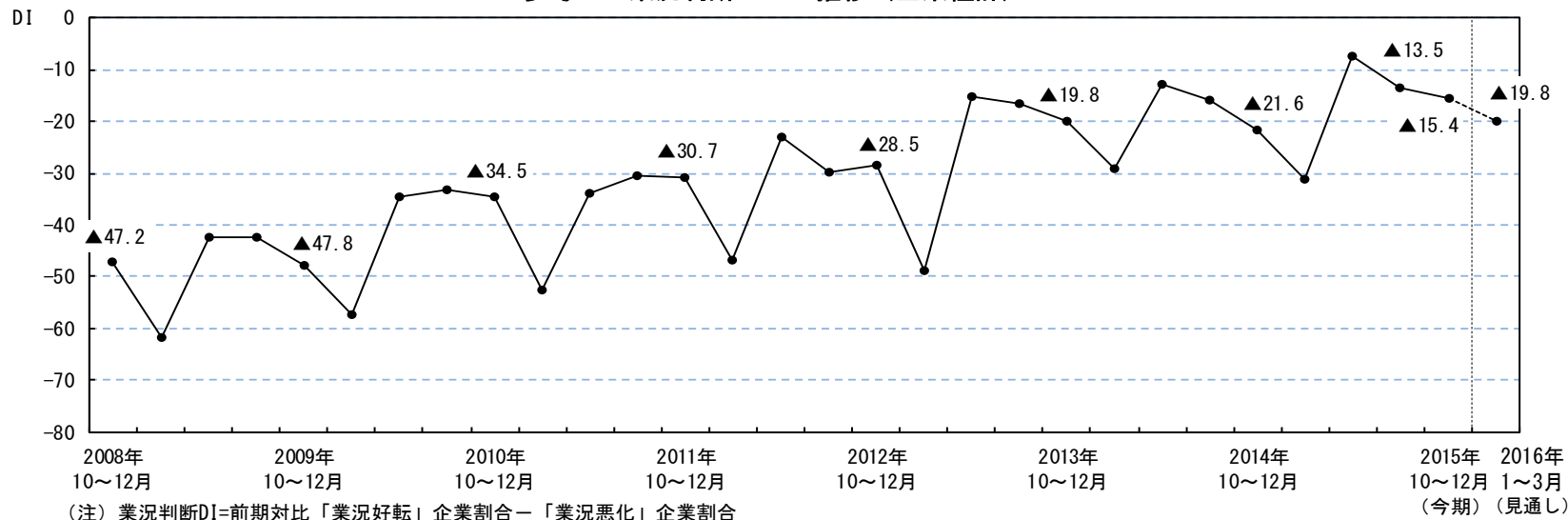
I 景気の動向

1. 業況判断

● 業況判断DIは、前期から1.9ポイント低下して▲15.4となった。前年同期に対しては6.2ポイント上回り、3期連続で前年同期の水準を上回った。

来期の見通しは▲19.8となり、4.4ポイントの低下を見込んでいる。

参考1 業況判断DIの推移（全業種計）



参考2 業種別業況判断DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2014年 10~12月	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月 (今期)	2016年 1~3月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲ 4.0	▲ 26.6	▲ 4.8	▲ 4.1	2.8	▲ 8.5
氷 雪	▲ 53.6	▲ 55.4	8.5	34.5	▲ 48.2	▲ 30.4
理 容	▲ 36.6	▲ 40.1	▲ 9.3	▲ 15.5	▲ 25.9	▲ 27.5
美 容	▲ 22.7	▲ 30.1	▲ 15.0	▲ 16.1	▲ 21.0	▲ 16.8
映 画 館	▲ 42.6	▲ 18.5	▲ 5.8	41.1	▲ 22.8	8.8
ホテル・旅館	6.1	▲ 25.0	5.9	17.1	21.5	▲ 16.9
公衆浴場	▲ 18.0	▲ 5.5	▲ 30.4	▲ 17.5	▲ 16.1	▲ 12.5
クリーニング	▲ 15.9	▲ 49.6	21.3	▲ 44.7	▲ 8.5	▲ 38.8

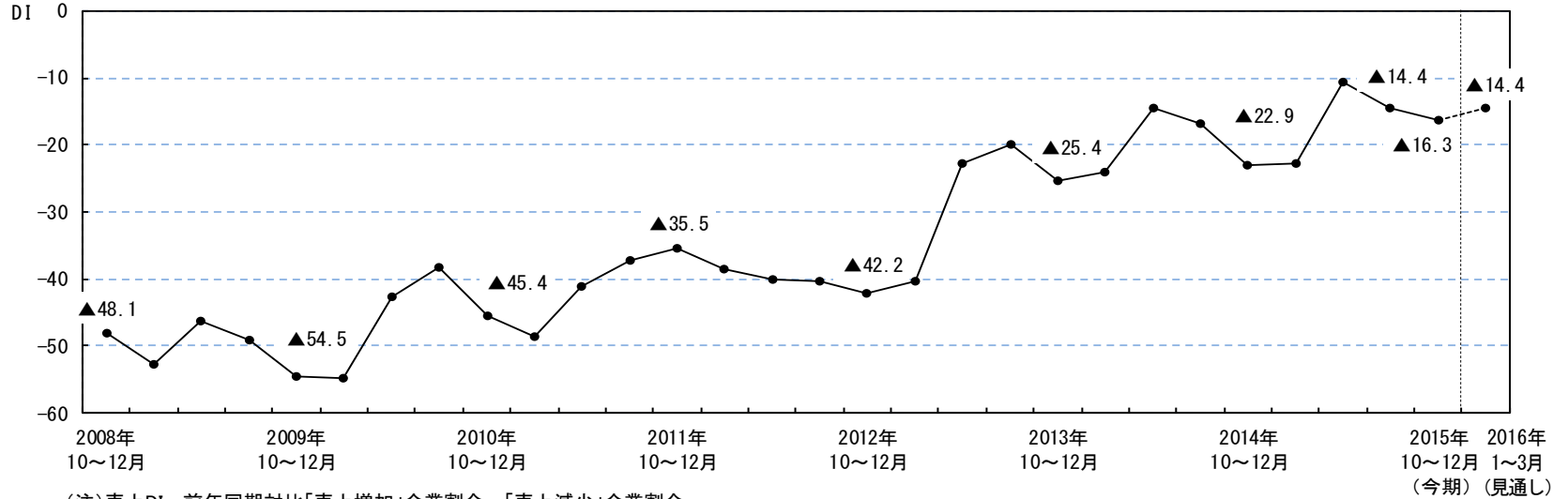
参考3 飲食業業況判断DIの推移

凡例	2014年 10~12月	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月 (今期)	2016年 1~3月 (見通し)
飲食業（全体）	▲ 21.6	▲ 28.9	▲ 10.5	▲ 14.8	▲ 16.8	▲ 18.1
そば・うどん	▲ 24.3	▲ 37.0	3.9	▲ 7.1	▲ 21.3	▲ 17.6
中華料理	▲ 23.7	▲ 22.2	▲ 15.6	▲ 11.0	▲ 13.3	▲ 13.3
す し	▲ 22.4	▲ 25.8	▲ 18.2	▲ 17.0	▲ 14.3	▲ 18.1
料 理	▲ 17.3	▲ 21.2	▲ 8.8	▲ 25.7	▲ 8.8	▲ 21.3
喫 茶	▲ 24.4	▲ 32.0	▲ 12.6	▲ 11.8	▲ 20.4	▲ 24.9
社 交	▲ 25.8	▲ 37.0	▲ 19.4	▲ 26.8	▲ 17.5	▲ 18.0
その他飲食	▲ 17.5	▲ 27.3	▲ 6.6	▲ 10.7	▲ 18.2	▲ 16.4

2. 売上

- 売上DIは、前期から1.9ポイント低下して▲16.3となった。前年同期に対しては6.6ポイント上回り、11期連続で前年同期の水準を上回った。来期の見通しは▲14.4となり、1.9ポイントの上昇を見込んでいる。

参考4 売上DI（前年同期比）の推移



参考5 業種別売上DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2014年 10~12月	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月 (今期)	2016年 1~3月 (見通し)
食肉・食鳥肉	2.7	6.3	21.9	15.9	23.9	13.4
氷 雪	▲42.9	▲39.3	▲8.5	23.6	▲12.5	▲33.9
理 容	▲40.1	▲40.9	▲24.8	▲29.2	▲30.3	▲27.6
美 容	▲28.0	▲24.8	▲19.7	▲22.5	▲26.6	▲16.6
映 画 館	▲40.7	▲31.5	▲40.4	3.6	3.5	15.8
ホテル・旅館	2.4	▲12.2	14.8	12.9	14.5	▲10.5
公衆浴場	▲24.3	▲11.9	▲28.7	▲33.3	▲26.8	▲18.8
クリーニング	▲24.6	▲33.6	▲5.0	▲20.5	▲24.4	▲25.2

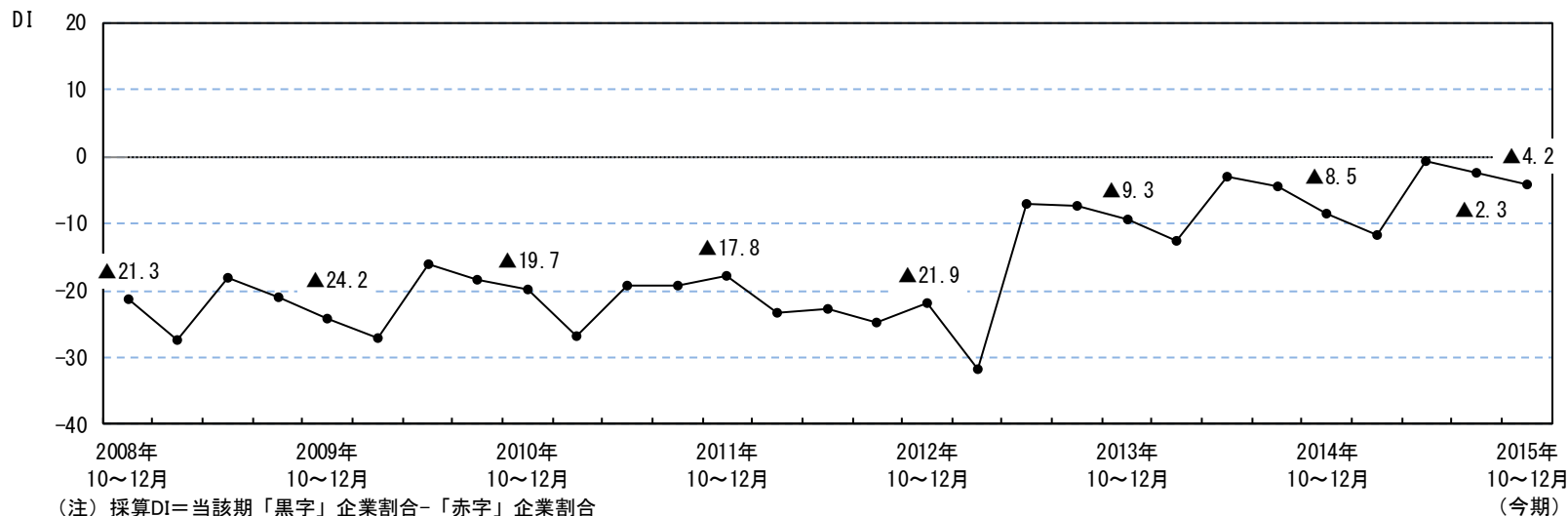
参考6 飲食業売上DIの推移

凡例	2014年 10~12月	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月 (今期)	2016年 1~3月 (見通し)
飲食業（全体）	▲20.7	▲19.7	▲9.0	▲14.0	▲16.0	▲11.7
そば・うどん	▲5.6	▲10.6	7.8	▲8.7	▲10.2	▲16.7
中華料理	▲24.0	▲16.2	▲11.2	▲6.7	▲4.0	▲2.9
す し	▲19.1	▲17.0	▲12.0	▲18.6	▲20.3	▲14.3
料 理	▲28.4	▲27.6	▲16.4	▲20.3	▲14.1	▲17.8
喫 茶	▲24.2	▲25.0	▲8.7	▲16.9	▲20.6	▲12.2
社 交	▲33.7	▲27.3	▲15.2	▲24.9	▲33.5	▲17.5
その他飲食	▲16.4	▲18.0	▲8.5	▲8.4	▲11.7	▲6.8

3. 採算

- 採算DIは、前期から1.9ポイント低下して▲4.2となった。前年同期に対しては4.3ポイント上回り、11期連続で前年同期の水準を上回った。

参考7 採算DIの推移（全業種計）



参考8 業種別採算DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2014年 10~12月	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 2.0	2.8	4.1	8.2	9.9
氷 雪	0.0	▲ 21.4	▲ 5.1	38.2	3.6
理 容	▲ 9.9	▲ 13.8	▲ 1.1	▲ 0.3	▲ 7.0
美 容	▲ 3.7	▲ 4.4	0.7	▲ 2.3	▲ 5.3
映 画 館	▲ 24.1	▲ 11.1	▲ 1.9	19.6	▲ 15.8
ホテル・旅館	9.8	▲ 7.3	7.1	10.6	24.4
公衆浴場	▲ 25.2	▲ 5.5	▲ 15.7	▲ 13.2	▲ 10.7
クリーニング	▲ 4.8	▲ 31.7	21.3	▲ 7.8	1.2

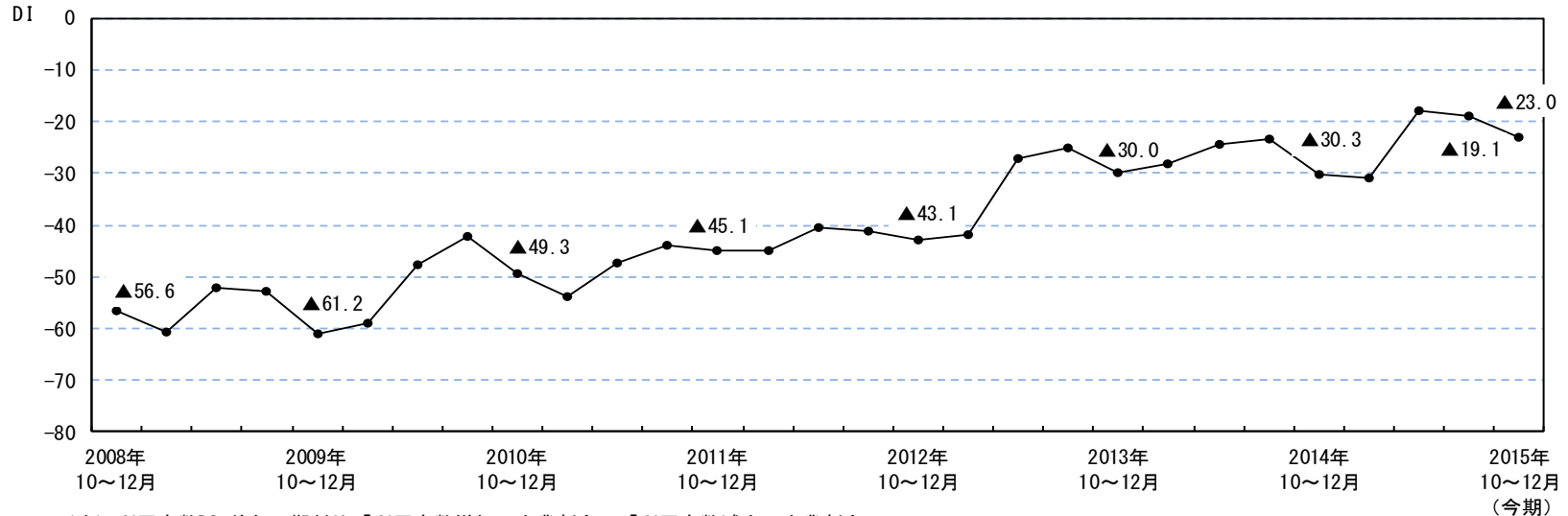
参考9 飲食業採算DIの推移

凡例	2014年 10~12月	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月 (今期)
飲食業（全体）	▲ 11.4	▲ 12.2	▲ 5.2	▲ 5.9	▲ 8.3
そば・うどん	0.6	▲ 6.1	5.6	4.9	▲ 0.5
中華料理	▲ 9.2	▲ 9.7	▲ 2.8	▲ 2.2	▲ 3.5
す し	▲ 12.6	▲ 11.0	▲ 12.5	▲ 9.6	▲ 11.0
料 理	▲ 14.0	▲ 11.6	▲ 10.9	▲ 20.7	▲ 7.4
喫 茶	▲ 16.1	▲ 21.9	▲ 14.9	▲ 8.4	▲ 18.8
社 交	▲ 23.1	▲ 15.2	▲ 7.0	▲ 8.2	▲ 13.4
その他飲食	▲ 9.0	▲ 11.1	▲ 0.5	▲ 3.4	▲ 6.0

4. 利用客数

- 利用客数DIは、前期から3.9ポイント低下して▲23.0となった。前年同期に対しては7.3ポイント上回り、3期連続で前年同期の水準を上回った。

参考10 利用客数DIの推移（全業種計）



(注) 利用客数DI=前年同期対比「利用客数増加」企業割合－「利用客数減少」企業割合

参考11 業種別利用客数DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2014年 10~12月	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 4.7	▲ 15.4	▲ 2.1	▲ 4.1	2.8
氷 雪	▲ 37.5	▲ 39.3	▲ 13.6	▲ 1.8	▲ 26.8
理 容	▲ 47.3	▲ 43.4	▲ 27.5	▲ 31.6	▲ 38.6
美 容	▲ 37.5	▲ 38.3	▲ 29.9	▲ 28.3	▲ 34.4
映 画 館	▲ 31.5	▲ 35.2	▲ 36.5	5.4	19.3
ホテル・旅館	▲ 1.2	▲ 11.6	4.7	9.4	6.4
公衆浴場	▲ 41.4	▲ 33.0	▲ 39.1	▲ 38.6	▲ 36.6
クリーニング	▲ 34.5	▲ 42.0	▲ 13.6	▲ 23.2	▲ 24.4

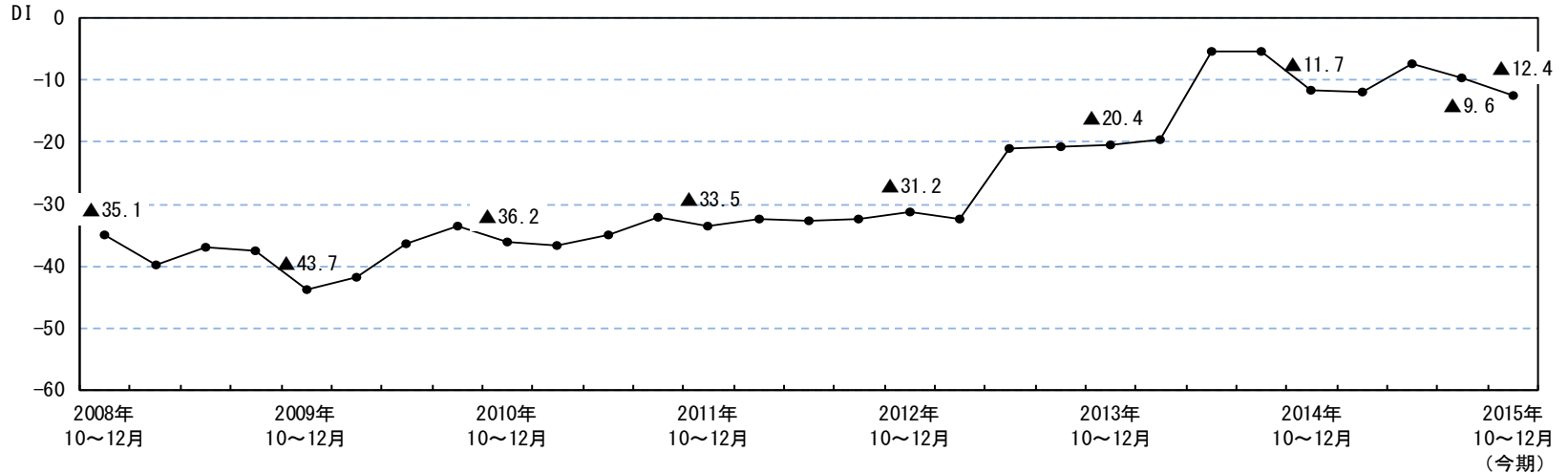
参考12 飲食業利用客数DIの推移

凡例	2014年 10~12月	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月 (今期)
飲食業（全体）	▲ 27.8	▲ 26.5	▲ 14.9	▲ 17.4	▲ 21.8
そば・うどん	▲ 17.3	▲ 21.7	▲ 1.7	▲ 8.2	▲ 21.0
中華料理	▲ 23.4	▲ 19.7	▲ 14.0	▲ 9.4	▲ 8.7
す し	▲ 31.7	▲ 29.1	▲ 14.7	▲ 18.1	▲ 22.5
料 理	▲ 37.2	▲ 20.0	▲ 19.9	▲ 26.1	▲ 19.3
喫 茶	▲ 31.5	▲ 31.8	▲ 20.8	▲ 24.9	▲ 32.2
社 交	▲ 37.6	▲ 35.0	▲ 23.4	▲ 34.2	▲ 34.5
その他飲食	▲ 23.0	▲ 26.5	▲ 12.9	▲ 10.0	▲ 17.5

5. 客単価

- 客単価DIは、前期から2.8ポイント低下して▲12.4となった。前年同期に対しては0.7ポイント下回り、3期連続で前年同期の水準を下回った。

参考13 客単価DIの推移（全業種計）



(注) 客単価DI=前年同期対比「客単価上昇」企業割合-「客単価低下」企業割合

参考14 業種別客単価DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2014年 10~12月	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 3.4	▲ 11.2	▲ 2.1	1.4	▲ 4.9
氷 雪	▲ 30.4	▲ 25.0	▲ 11.9	0.0	▲ 8.9
理 容	▲ 14.5	▲ 11.9	▲ 10.8	▲ 15.5	▲ 14.9
美 容	▲ 11.2	▲ 10.3	▲ 8.1	▲ 14.5	▲ 16.9
映 画 館	24.1	7.4	▲ 9.6	0.0	5.3
ホテル・旅館	▲ 0.6	▲ 0.6	8.9	13.5	10.5
公衆浴場	14.4	17.4	0.0	▲ 7.0	▲ 16.1
クリーニング	▲ 27.4	▲ 31.6	▲ 12.4	▲ 22.0	▲ 22.1

参考15 飲食業客単価DIの推移

凡例	2014年 10~12月	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月 (今期)
飲食業（全体）	▲ 13.1	▲ 12.7	▲ 7.8	▲ 9.2	▲ 12.8
そば・うどん	3.4	1.1	▲ 0.6	▲ 3.3	▲ 6.5
中華料理	▲ 14.6	▲ 10.4	▲ 10.7	▲ 10.0	▲ 12.7
す し	▲ 19.7	▲ 17.6	▲ 4.2	▲ 9.6	▲ 7.1
料 理	▲ 12.2	▲ 6.2	▲ 12.3	▲ 18.8	▲ 15.6
喫 茶	▲ 15.2	▲ 18.8	▲ 4.0	▲ 7.3	▲ 17.2
社 交	▲ 24.3	▲ 17.5	▲ 13.6	▲ 15.0	▲ 22.2
その他飲食	▲ 11.1	▲ 15.2	▲ 8.7	▲ 5.8	▲ 10.7

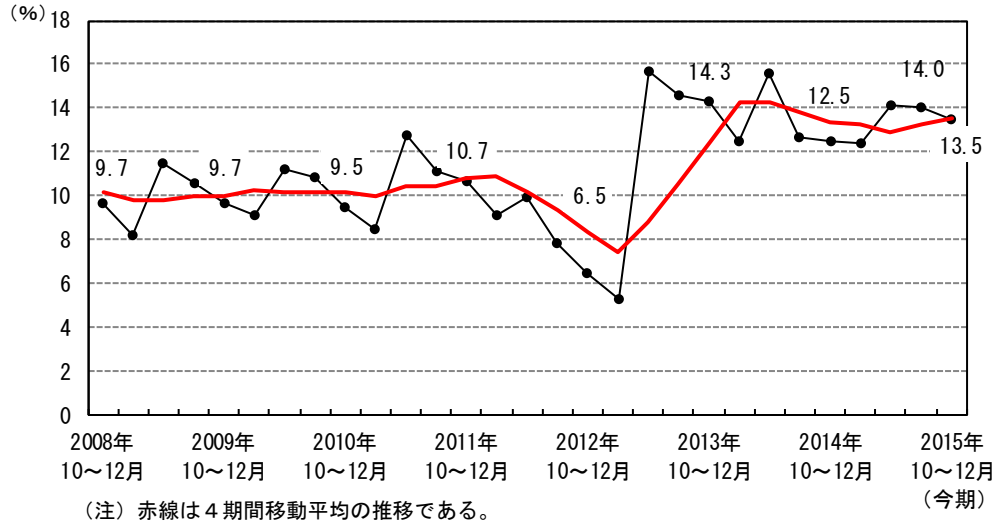
II 設備投資の動向

1. 設備投資の実施状況

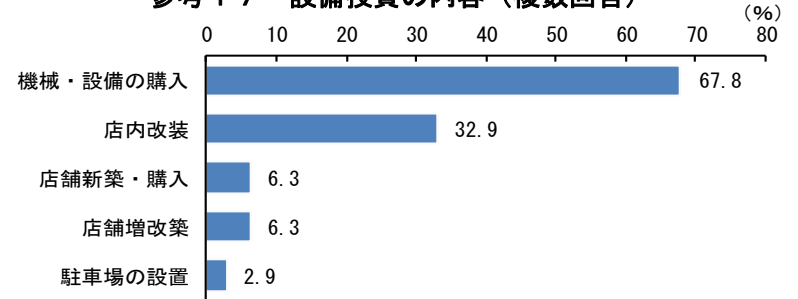
今期(2015年10~12月期)に設備投資を行った企業の割合は13.5%と前期(14.0%)に比べ0.5ポイント低下した。前年同期(12.5%)に対しては1.0ポイント上昇した。

生活衛生関係営業の設備投資は、持ち直しの動きが続いている。

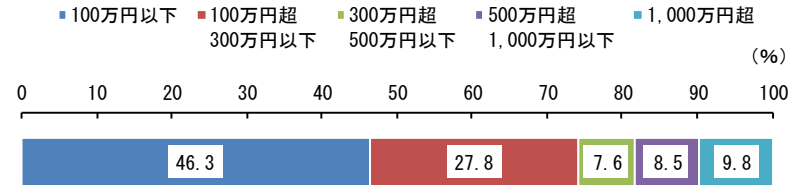
参考16 設備投資実施割合の推移(全業種計)



参考17 設備投資の内容(複数回答)



参考18 設備投資金額(全業種)



参考19 業種別設備投資実施割合の推移(飲食業を除く)

凡例	2014年 10~12月	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月 (今期)
食肉・食鳥肉	22.1	15.4	20.4	19.9	18.3
氷 雪	7.1	5.4	6.8	9.1	7.1
理 容	8.1	6.4	11.7	9.9	8.1
美 容	8.6	11.3	12.9	9.6	12.0
映 画 館	20.4	14.8	17.3	19.6	17.5
ホテル・旅館	29.3	33.5	34.9	40.6	31.4
公衆浴場	22.5	15.6	21.7	18.4	25.0
クリーニング	11.9	15.5	12.0	11.0	11.2

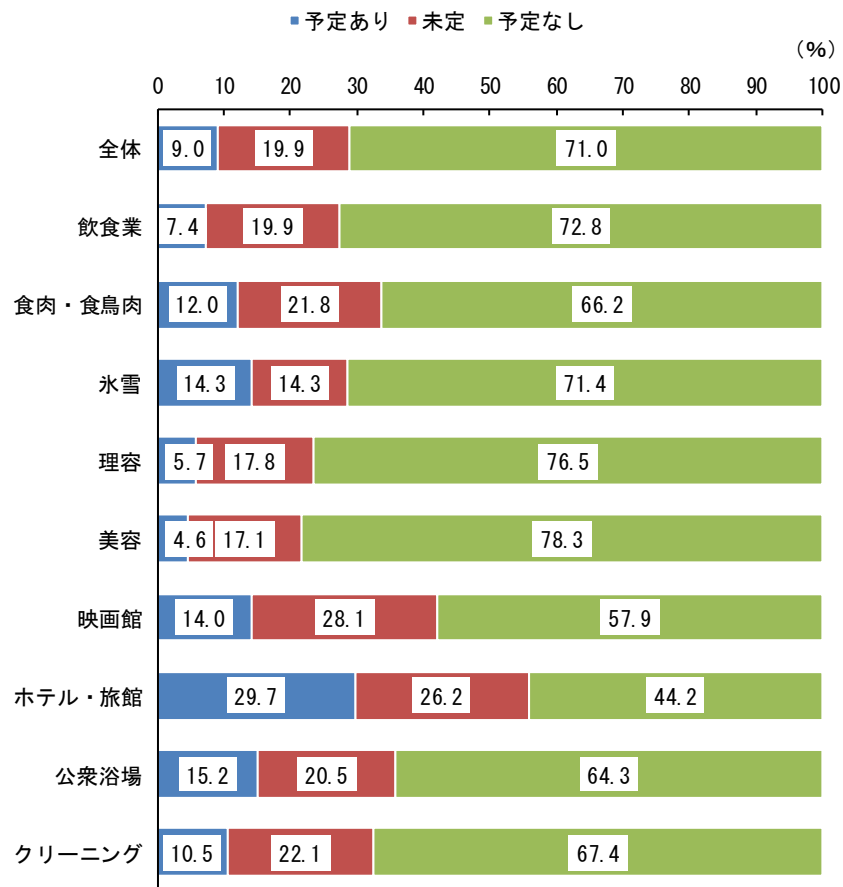
参考20 飲食業設備投資実施割合の推移

凡例	2014年 10~12月	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月 (今期)
飲食業(全体)	11.2	10.9	11.9	12.8	12.3
そば・うどん	9.4	12.7	15.6	13.1	13.3
中華料理	11.0	11.4	12.8	13.8	14.5
す し	16.4	12.1	9.4	18.1	13.2
料 理	12.7	16.4	22.4	20.0	19.9
喫 茶	10.0	7.3	8.6	11.2	8.3
社 交	4.9	7.6	4.3	5.7	6.2
その他飲食	12.5	10.4	12.2	11.5	12.7

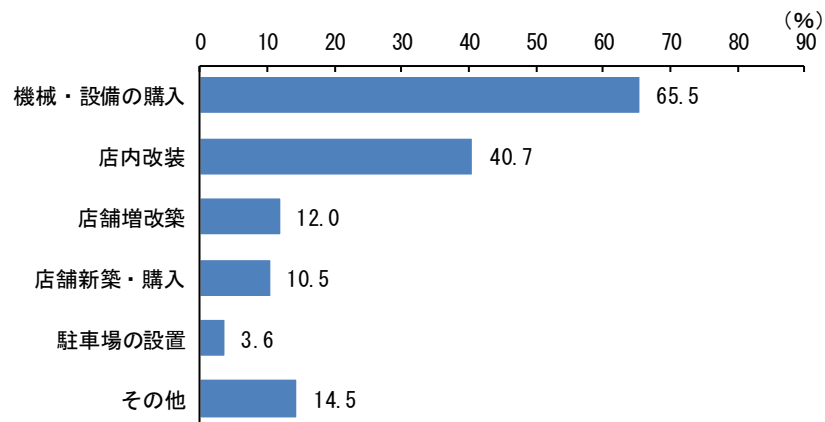
2. 来期以降1年間の設備投資計画

- 来期以降1年間の設備投資計画については、「予定あり」9.0%、「未定」19.9%、「予定なし」71.0%となっている。
- 設備投資を「予定あり」とする企業を業種別に高い順にみると、「ホテル・旅館業」29.7%、「公衆浴場業」15.2%、「冰雪販売業」14.3%となっている。

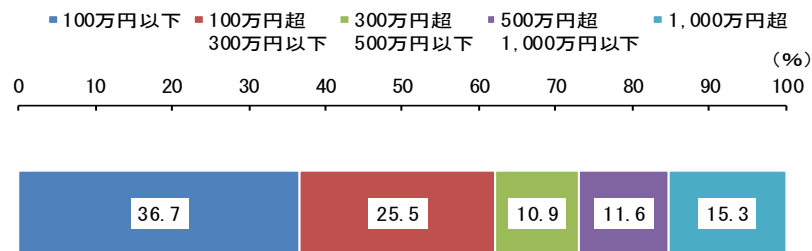
参考2-1 来期以降1年間の設備投資計画の実施予定割合（業種別）



参考2-2 設備投資計画の内容（全業種、複数回答）



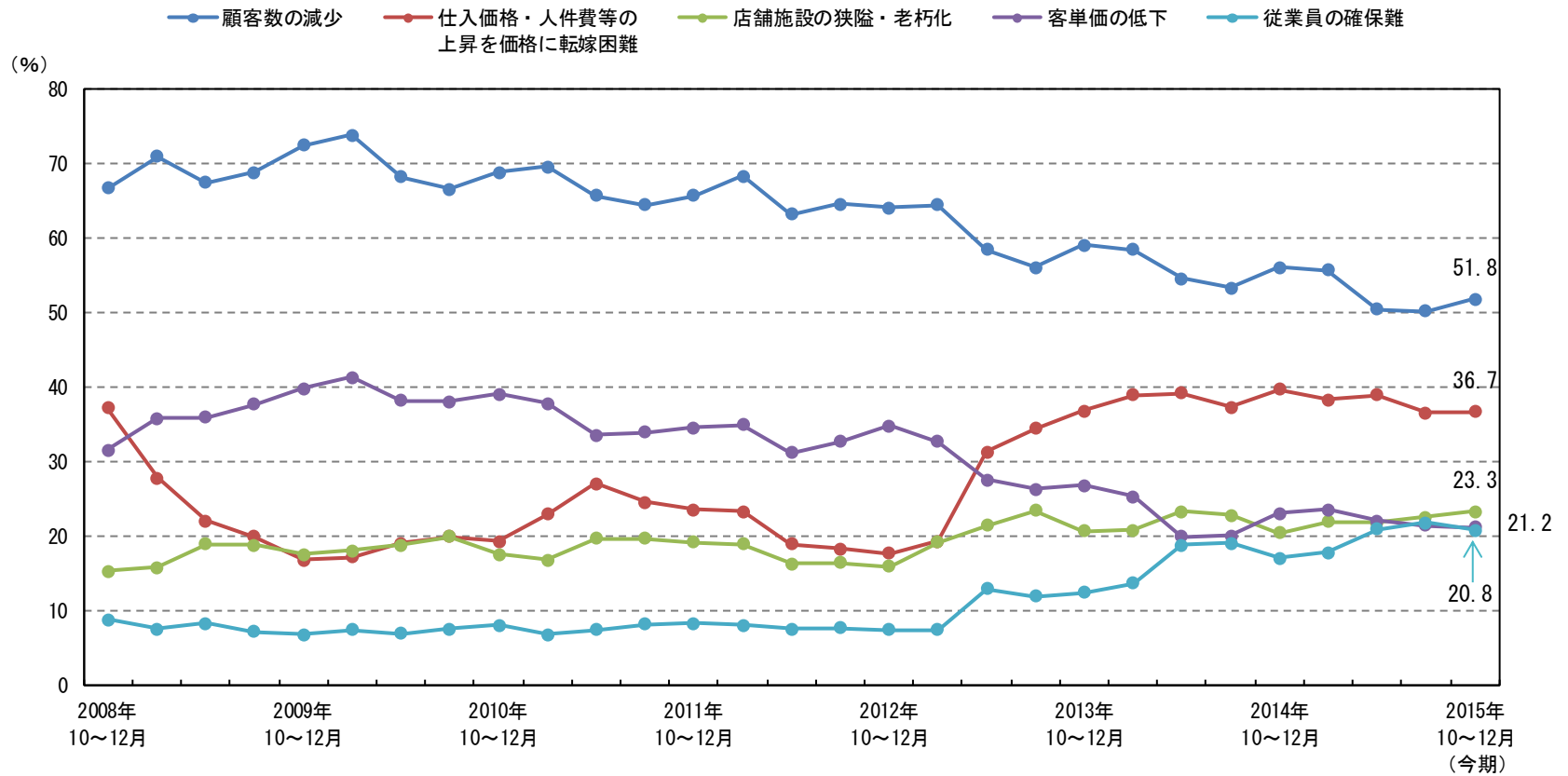
参考2-3 設備投資予定金額（全業種）



Ⅲ 経営上の問題点

- 経営上の問題点で多い物を順にみると、「顧客数の減少」51.8%、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」36.7%、「店舗施設の狭隘・老朽化」23.3%、「客単価の低下」21.2%、「従業員の確保難」20.8%となっている。

参考24 主な経営上の問題点の推移（全業種、複数回答）



参考 2 5 経営上の問題点（業種別、2015年10～12月）

(%)

項 目	顧客数の減少	仕入価格の 上昇・人件費の 増加・転嫁困難	店舗施設の 狭隘・老朽化	客単価の減少	従業員の確保難	後継者難	事業資金借入難	その他	特に問題なし
業 種 合 計	51.8	36.7	23.3	21.2	20.8	10.0	3.2	3.7	7.8
飲食業合計	46.7	48.2	20.0	19.4	23.8	8.4	3.9	3.6	7.0
そば・うどん店	39.4	57.4	20.7	12.2	29.3	10.6	4.3	4.3	2.7
中華料理店	36.4	54.3	26.6	19.1	19.1	13.9	3.5	2.3	7.5
すし店	47.3	43.4	19.2	18.7	23.6	9.3	4.9	5.5	7.1
料理店	48.5	47.1	18.4	28.7	27.2	3.7	4.4	2.2	5.9
喫茶店	55.8	54.7	22.7	19.3	16.0	7.2	2.8	3.9	4.4
社交業	57.7	29.4	12.4	23.2	28.4	7.7	2.1	3.6	12.4
その他飲食店	44.2	50.1	20.3	18.2	23.6	7.0	4.7	3.4	7.8
食肉・食鳥肉販売業	26.8	59.2	20.4	20.4	24.6	11.3	2.8	0.0	7.0
冰雪販売業	50.0	21.4	23.2	32.1	14.3	30.4	1.8	5.4	7.1
理容業	71.2	17.3	17.5	27.2	11.3	13.5	1.9	5.1	9.4
美容業	61.3	22.1	18.7	23.7	20.7	7.8	3.5	5.8	10.6
映画館	59.6	21.1	45.6	7.0	21.1	7.0	7.0	10.5	5.3
ホテル・旅館業	30.8	30.2	51.7	11.6	39.0	12.2	1.7	0.6	4.7
公衆浴場業	68.8	21.4	48.2	12.5	4.5	14.3	0.9	0.9	5.4
クリーニング業	55.8	30.6	25.6	30.2	11.6	9.3	2.3	2.7	9.7

(注) 複数回答のため合計は100を超える。

IV 地域の特徴的な動きと 経営取り組み事例

(業況に対する判断理由(今期および来期見通し)より抜粋)

今期：2015年10～12月期
来期：2016年1～3月期

1. 地域の特徴的な動き

(1) 北海道

都道府県	業種	業況	判断理由
北海道	ホテル・旅館業	好転 (今期)	中国人を中心とした外国人観光客の増加で、中心街のホテルが満室であふれたお客様が当ホテルに来られたため稼働率が上昇した。また、学会や嵐の札幌ドームツアー等大きなイベント開催も好転要因となった。
北海道	その他飲食店	不変 (来期)	常連客の高齢化による来客数の減少は否めないものの客単価が上昇傾向にある為、売上はほぼ変わらない。北海道においては今後の景気動向に好材料が見当たらず停滞が予想される。

(2) 北東北（青森県、岩手県、秋田県）

都道府県	業種	業況	判断理由
青森県	中華料理店	不変 (今期)	固定客は若干減少してきているが、観光客やビジネスマンが多少増加しており、全体的に変わらない。
岩手県	すし店	悪化 (今期)	対象となる地域人口の減少と新規出店の増加により競争が激しくなり、売上減少など、経営はますます厳しくなっている。
秋田県	食肉販売業	不変 (来期)	豚肉の相場が9月頃から下がり、11月は昨年より2割ほど低くなった。牛肉は逆に3割ほど高くなり、数量も少ない。牛肉は原価の上昇を価格に転嫁しやすいが、高くなったため消費者が離れていくことが心配。

(3) 南東北（宮城県、山形県、福島県）

都道府県	業種	業況	判断理由
宮城県	中華料理店	悪化 (今期)	付近が過疎化する一方で、飲食店の増加や郊外の大型店出店などにより売上は減少を続けている。夜の客数増に向けた取り組みを考えているが、具体化していない。
山形県	そば・うどん店	悪化 (今期)	県産そばの不作により、原料であるそば粉の値上げや野菜の値上がりに加えて急激な労働力不足により業況の悪化は避けられない。
福島県	ホテル・旅館業	不変 (来期)	今期は除染関係者や工事関係者の利用が多かったが、来期は減少が見込まれる。よって、それらの減少分を、震災以前の利用客であった出張客や学生の合宿、スポーツ大会客などで補わなければ売上維持が難しい。

(4) 北関東（茨城県、栃木県、埼玉県、群馬県）

都道府県	業種	業況	判断理由
茨城県	ホテル・旅館業	好転 (今期)	観光客の出足がよく、買物等に前向きである。観光客向けクーポンも徐々にではあるが効果を上げている。
栃木県	ホテル・旅館業	好転 (今期)	建設事業者の宿泊が増加している。また食事の際にビール等の注文も多く、売上が伸びている。
埼玉県	そば・うどん店	好転 (来期)	駅の改築が終了することで、新規のお客様が見込まれる。また、それに伴って駅では各種イベント企画の計画があり、売上増加を期待している。
群馬県	ホテル・旅館業	好転 (来期)	9月から、赤城大沼のワカサギの放射性セシウム値が下がり、ポート釣りが出来るようになった。1月からは大沼氷上でのワカサギ釣りが可能になり、4年ぶりに大勢の釣客が期待できる。

(5) 信越（新潟県、長野県）

都道府県	業種	業況	判断理由
新潟県	喫茶店	悪化 (来期)	従業員・パート・アルバイトの募集をかけているが、いい人材の確保が難しいため、日々の営業で手一杯で来期に思いが及ばない。人材不足・質の悪さに頭が痛い。
長野県	そば・うどん店	不変 (今期)	9、10月は週末ごとに天気が悪くやや低調だったが、11月は暖かい日が続き持ち直した。大きなイベント（コンサート、学会などの会議、スポーツイベント）があると来客が大幅に増加する。

(6) 南関東（東京都、千葉県、神奈川県、山梨県）

都道府県	業種	業況	判断理由
東京都	冰雪販売業	不変 (来期)	引き続き、景気回復感は堅調に推移するものと考えられ、飲食店の新規開店による得意先の増加も予測される。
千葉県	すし店	悪化 (今期)	一昨年4月に消費税が8%に上がった当初の影響は無くなったが、中小企業の社員の給料が上がっていないので、全体的に店の業績は良くない。店に来るお客様も少ないし、売上も悪い。
神奈川県	ホテル・旅館業	好転 (来期)	箱根大涌谷の噴火警戒レベルが11月に「1（平常レベル）」に戻ったことから、年末から新年以降の予約状況は回復傾向にある。加えて、外国人観光客は噴火警戒レベルにかかわらず堅調に推移しており、今後も増加が見込める。

(7) 北陸（富山県、石川県、福井県）

都道府県	業種	業況	判断理由
富山県	すし店	好転 (今期)	北陸新幹線の開通により観光客や学会等の多数の人が来県したためお客が増えている。
石川県	料理店	悪化 (来期)	北陸新幹線の影響もひと段落。地元の需要はそれほど伸びていないので、今後の落ち込みが心配だ。
福井県	ホテル・旅館業	好転 (今期)	新幹線の金沢開通により、福井駅前ホテルの活況が続き、あふれたお客様が周辺のビジネスホテルまで広がり、平日でも家族連れの宿泊が増えた。

(8) 東海（岐阜県、静岡県、愛知県、三重県）

都道府県	業種	業況	判断理由
岐阜県	映画館	好転 (来期)	来期は正月シーズンであり、今年は岐阜県にゆかりのある「杉原千畝」の伝記的映画の公開があり、今から集客が楽しみである。また「007」の新作も上映予定で、特に当劇場の主客であるシニア層の動員が期待できると思う。
静岡県	その他飲食店	不変 (来期)	円安による輸入物価の上昇やTPPの問題が、これから先どのように変化していくのか分からない。また、2年先には消費税増税もあり、財布のヒモはなかなか緩くならないと思われる。
愛知県	その他飲食店	好転 (今期)	豊田市内に店を構えているので、大企業（トヨタ）城下町故の景気動向に左右されやすい部分が多い。営業努力としては、ワインの品揃えを豊富にし、ワインに合う料理を増やすことにより、顧客を確保できた。
三重県	ホテル・旅館業	好転 (今期)	銀行等の工事があり客数が増加。普段は宿泊のみが多いが工事関係の方は2食付きが多いため客単価も上昇した。

(9) 北近畿（滋賀県、京都府、兵庫県）

都道府県	業種	業況	判断理由
滋賀県	ホテル・旅館業	不変 (来期)	訪日外国人が増えているが、民泊や分散泊（地域分散）により均等化が進んでいくものと思われるので変わらないのではないかと。
京都府	喫茶店	悪化 (来期)	杞憂かもしれないが中国経済がこのまま続くとは思えないので、外国人観光客が減るのではと懸念している。
兵庫県	公衆浴場業	不変 (今期)	客足が遠のく季節だが、出来る限り業況が維持できる様に神戸マラソン無料優待入浴を神戸市浴場組合連合会（市浴連）が企画している。ランナーとボランティアが当日無料で入浴でき、料金は市浴連が補助し集客に努めている。

(10) 南近畿（大阪府、奈良県、和歌山県）

都道府県	業種	業況	判断理由
大阪府	社交業	悪化 (来期)	厳しい状況は続くだろう。現在も酒類、その他の材料費も値上がりしている。マイナンバー制度がスタートしたのでアルバイトの確保も難しくなるのではと心配している。
奈良県	ホテル・旅館業	不変 (来期)	インバウンドのうち、個人客、グループリピーターが増加した。しかし、世界の情勢が複雑化しているため、見通しは慎重にならざるを得ない。
和歌山県	その他飲食店	好転 (今期)	インバウンドのお客が近隣のホテルに宿泊するようになり、その宿泊客が食事に来店するため、当店の売上が好調に推移している。

(11) 中国（鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県）

都道府県	業種	業況	判断理由
鳥取県	クリーニング業	不変 (今期)	燃料（重油など）価格が安定せず、また、資材や材料が高値安定で商品に転嫁しづらい。売上が横ばいなのに、最低賃金が上がり経営を圧迫している。定期的に特売はしているが、特売日は増えるがその後はさっぱりである。それでもスタッフによる手作りのポストティングをして頑張っている。
島根県	ホテル・旅館業	好転 (今期)	当期は最高の繁忙期であり例年通り順調であった。特に目立った点は、「しまねプレミアム券」の利用が予想をはるかに超える好成績であった。オフシーズンとなる来期こそ多くの方に利用して欲しい。
岡山県	ホテル・旅館業	好転 (今期)	1年を通し、一番客数が少なくなる時期であり、全体需要は低下するが、インバウンドは引き続き好調で底上げができています。
広島県	すし店	悪化 (来期)	各単価が下がる一方で、高額商品の売れ行きもイマイチである。また、近所に新たに大型競合店がオープンするため、これまでの常連客の確保が難しくなることが予測される。
山口県	ホテル・旅館業	不変 (来期)	季節的な要因もあり、客数の減少は避けられないが、萩の世界遺産登録が集客のためのよい材料となることに期待している。

(12) 四国（徳島県、香川県、愛媛県、高知県）

都道府県	業種	業況	判断理由
徳島県	ホテル・旅館業	好転 (来期)	来年は、閏年であり八十八カ所の逆打ちの年となる。逆打ちは功德が大きいとされているため、「お遍路ツアー」が増加すると思われるので、好転が期待できる。
香川県	ホテル・旅館業	不変 (来期)	28年3月に瀬戸内国際芸術祭があっても期間が10日間と短いので、来期は効果が期待できない。
愛媛県	ホテル・旅館業	好転 (来期)	遍路道開場1200年、道後温泉開湯3000年のミレニアム年でもあり、周知活動や道後地区でのイベントを活発に開催した。外国人観光客の増加も追い風に、国内客も増加した。来期の予約も順調に入っており、当面悪化する要因はない。
高知県	社交業	悪化 (来期)	高齢の固定客の減少に加えて若者のアルコール離れにより当店も業況悪化が続いている。正直なところ手の打ちようがない。

(13) 九州北（福岡県、佐賀県、長崎県、大分県）

都道府県	業種	業況	判断理由
福岡県	ホテル・旅館業	好転 (今期)	「ふるさと旅行券」などのネット販売利用により、お客の旅行回数が増えたことや海外からの旅行者が増えたことも重なり、宿泊客の増加に繋がっている。
長崎県	料理店	好転 (今期)	世界遺産の認定で国内、海外を問わず観光客が増加しているので売上増加につながった。
大分県	社交業	好転 (今期)	駅ビル等の商業施設の建設関係者の来店で売上が増加している。

(14) 南九州（熊本県、宮崎県、鹿児島県）

都道府県	業種	業況	判断理由
熊本県	クリーニング業	不変 (今期)	夏はクリーニングが少ない時期であったが、当期も残暑や雨の影響もあり売上が増加しなかった。
宮崎県	その他飲食店	不変 (来期)	シラス漁の不漁が続いている為、来期の仕入価格の上昇は避けられない。夏場の人員を確保する為にパート、アルバイトの極端なカットもできず、また、野菜等の質も落ちたくないので、仕方なく値上げを考えている。
鹿児島県	喫茶店	不変 (今期)	鹿児島市の中心地区の来客数は下げ止まったように思われる。また、今期は桜島の降灰が少なく好天の日が多かったので、客足は落ちなかった。

2. 経営取り組み事例（業種別）

業種	都道府県	内容
そば・うどん店	鹿児島県	雇用の関係上、営業時間の短縮を図る一方で接客努力等のサービス拡充でカバーした結果、人件費等経費の削減がなされ収支は好転するものと思われる。
中華料理店	宮崎県	今までラーメンやご飯物など単品が多かったが、最近、セットメニュー（ラーメンと半チャーハンなど）をはじめたところ、約20%客単価が上がった。10月からはフェイスブック（SNS）を始めた。これによる宣伝効果も出てきている。
すし店	福岡県	商店街の空き店舗に異業種の若者の出店が相次ぎ、その方達との交流の中で、お客様を紹介し合う事により、新規客の来店が増えている。
料理店	千葉県	料理業では老舗の閉店や規模の縮小が多く見られる。当店でも従業員を減らしながらも、ゼミでの和食のマナー教室・講習の開催、また、和琴の生演奏を聴きながら食事を楽しむ会などを開催するなど話題づくりに努め、来店客増加に結び付けている。
喫茶店	滋賀県	ソムリエ資格取得後、月1回のワイン&カクテルバー・ワインの試飲の会を実施。ワイン会というイベントを増やしていくことにより来客数も10%以上の増加が望める。
社交業	神奈川県	店の特長である生演奏をバックに歌えることが好評でリピーターが固定していること、このほか年末にかけて会社団体の宴会予約、及びアマチュアが演奏するバンドライブの会場予約の入り具合から、来期についても利用客の増加が見込まれる。
その他飲食店	三重県	10月からプレミアム商品券が始まり、来店が増えた。割引商品券が利用でき予想以上の効果があった。また、11月からメニューを変更し高めのメニューをラインナップに入れて、それをお勧めしたところ、かなりの注文を頂き客単価アップ、売上アップにつながった。
食肉販売業	滋賀県	県産品の近江牛を中心アイテムに営業している。仕入れコストの急激な上昇による値上げもあるが、地域クーポンの実施等の景気振興策等が功を奏し業況は好転した。
食鳥肉販売業	宮崎県	生肉は料理をしない方が増えたので、加工品や惣菜類に力を入れている。業況は横ばいである。
冰雪販売業	神奈川県	客単価は低下するものの、移動販売業者や露天商などの取引先を開拓してきた営業努力の効果が出て、当期の天候要因による需要減をカバーできた。また、大手イベント会社の余った商品を買戻す当社独自の在庫管理システムが好評で顧客の信頼を得ている。

業種	都道府県	内容
理容業	大阪府	女性の顔剃りを利用してもらうための講習等に積極的に参加し、広告宣伝等も行って女性客獲得に努めた成果が現れてきたと思う。
美容業	山口県	広告やTVCM・DM等の広告物を自社で作成している。イラストレーター1名を前年に入社させ、広告物の自社作成が成功したと思う。
映画館	東京都	引き続き、オールナイトや映画祭など、企画上映も検討していく。通常の番組編成の再検討も必要。
ホテル・旅館業	大分県	チラシ、情報紙等の活用・販促策で新規客が増加している。またリピーターが増加しており客数、売上ともに僅かではあるが増加した。
公衆浴場業	大阪府	6月より間伐材燃料導入によりガス燃料削減に成功し、コ・ジェネ発電もフル稼働が可能となって平均16%の節電に成功。厳密には電力会社の値上げが影響し固定費削減目標には達していないが、来年の電力自由化による電気料金値下げに期待している。
クリーニング業	山形県	インターネット・スマホの利用年齢の低年齢化に伴い、中学生がインターネットで店を探し、親御さんが商品を持ってきた例があった。学生が面接のために、急に洋服のクリーニングをしないといけなくなり、当店を「急ぎ」の検索で見つけて来店した例もある。ホームページのお蔭で、「急ぎ」「しみぬき」「虫穴修理」の注文がよく来るようになった。